

平成 30 年度 第 2 回長野県教科用図書選定審議会 議事録

1 日 時 : 平成 30 年 6 月 5 日 (火) 14 時～16 時

2 会 場 : 県庁議会棟 405 号室

3 出席者

○委員 : 櫻井委員、竹下委員、武田委員、堀委員、松谷委員、水野委員、神屋委員、小林誠委員、小林雅彦委員、二茅委員、浦澤委員、田仲委員、藤森委員、水口委員、宮澤委員

○事務局 : 三輪教育次長、佐倉教学指導課長、峯村企画幹、賜義務教育指導係長、渡邊特別支援教育課指導係長ほか

4 内 容

(1) 議事

①「特別の教科 道徳」の中学校用教科書の選定に必要な資料について

【武田委員】『学校図書』教科の目標からの配慮にある「4つのつながり」は数字だが、全体的な特徴の下から2行目にある「四つの視点」を漢字にしていることに理由はあるか。

【調査員】「四つの視点」は、学習指導要領にあるものをそのまま採用した。「4つのつながり」は、発行者の方で「4つ」と表記されていることから、そのまま使用した。

【武田委員】大事なことは読み手に伝わることである。たとえば「学習指導要領における四つの視点」などの修飾語を入れるなどの配慮が必要かと思う。続いて「紙面はAB判で」とあるが、『東京書籍』もAB判になっている。『東京書籍』ではAB判に触れていないが、特に『学校図書』で入れる特段の理由があるか。

【調査員】特にない。

【武田委員】AB判が見やすいというのであれば同じように触れ、必要がないのであれば取るべきだ。

【武田委員】『教育出版』の全体的な特色で「価値の方向」という言葉があるが、何のことを言っているのか。

【調査員】それぞれの題材は、こういう道徳的価値に向かってやってほしいという思いを、この言葉で表した。あまり使われない言葉かと思う。

【会 長】一つ目の、学校図書の「四つの視点」については、前のところに、「学習指導要領に」を付け加えることによって適切な文になるか。

【調査員】「具体的な4つのつながり」を取るということでしょうか。

【会 長】「具体的な4つのつながり」を取ると、「独自の視点「命／人・社会／自然／世界・文化」を軸に・・・」となる。それに伴って、下の「四つの視点」には加筆修正をしないということでもいいか。(異議なし)

【会 長】『学校図書』で「紙面はAB判で、」までを削除するというものでどうか。

【武田委員】AB判であることによって読みやすいのであれば、3社に全部付けた方がいい。AB判は書かれず、『学研教育みらい』だけ「A4判のゆとりのある紙面」と書いてあることになる。本当にこれが見やすいのかという議論は、調査ではどうだったのか。

【調査員】『学校図書』については、文字が大きいということは出されたが、他と比べて差が出るということはない。『学校図書』について調査した調査員はAB判がいいと感じたが、

他社と比べての違いということを出されていない。『学校図書』だけに記述することはどうかと、話を聞いて感じた。

- 【会 長】『学校図書』の「紙面はAB判で、」を削除し、後程出てくる大きい判のものについては、その時に修正があるかどうかの議論をすることとする。(異議なし)
- 【会 長】『教育出版』の2(2)、4について、「価値の方向を示した」を削除しても、おそらく大きな問題はないと感じるがいかがか。(異議なし)
- 【小林雅委員】『学校図書』の2(5)「教材を読み取りの負担を減らすように」というところだが、どの教科書も、どうやって読み取りをしっかりとするか考えている。我々もこれに苦勞をするものだ。この言葉を簡単に使わない方がいいのではないか。
- 【松谷委員】教材自体が読みやすいのか、紙質の関係で負担が減るのか、教材自体が簡単なのか、読みの負担を軽減というのは、どういう視点のことなのか。
- 【調査員】紙質の観点から見た時に、白すぎず少し黄色っぽいため、負担がなく読みやすいという意見が出ている。
- 【松谷委員】紙質は分かるが、本当に読みやすいのか。
- 【武田委員】「読み取る」だと読解まで含む。以降では「読みやすい」と書いてあるので、ここでも「読みやすい」とするのはどうか。「負担を減らす」も言い過ぎだと感じる。「様々な教材を」もいらない。反射しにくいから読みやすいのかと言われるとわからない。
- 【会 長】「大きめの文字が使われており、生徒が読みやすいように配慮されている。」はどうか。(異議なし)
- 【松谷委員】教育出版3(4)「全員を話し合いに参加させやすい」とあるが、「全員を」というと強すぎるのではないか。より多くの子がということだとは思う。「全員」を取ったらどうか。
- 【会 長】「全員を話し合いに」を「話し合いに」変えるということではいいか。
- 【堀 委員】「参加させやすい」の方がいいのか、「参加しやすい」の方がいいのか。
- 【会 長】主語が教師側になっているか、生徒側になっているかの違い。「生徒が話し合いに参加しやすいように配慮されている」はどうか。(異議なし)
- 【武田委員】『光村図書出版』3(2)の、「一目で教材配列を変更することが」の「一目で」かどうか分からないので「一目で」はいらない。
- 【武田委員】『光村図書出版』の2(5)の「負担を軽減し」は取り、「生徒が考える時間が十分にとれるように」は、脚注や振り仮名をすれば考える時間が十分に取れるというのはつながりが分かりにくいので、「生徒が読みやすいように配慮されている」程度でどうか。
- 【会 長】「脚注や振り仮名が豊富に設けられ、生徒が読みやすいように配慮されている」でどうか。(異議なし)
- 【松谷委員】『教育出版』と『学研教育みらい』について、「ユニバーサルデザイン」がこの2社にだけ入っているが、この2社だけ際立っていたということか。
- 【調査員】調査員の中では、どの会社もユニバーサルデザインだということだった。この2社だけということではない。
- 【会 長】2社の「ユニバーサルデザインを採用し、」を削除ということではいいか。(異議なし)

- 【武田委員】『学研教育みらい』3（1）「長く扱われてきた定番教材に併せて」とあるが、だれにとっての定番教材かわからない。これを取ったらどうか。
- 【会 長】「長く扱われてきた定番教材に併せて」を削除していいか。（異議なし）
- 【武田委員】『光村図書出版』3（3）「生徒が課題や事象を系統的・継続的に発達段階に応じた学びができるように」とあり、修飾語が多くて結局何を言っているのかわからない。
- 【武田委員】系統的、継続的の意味が分からない。「発達段階に応じた学び」は、もっとわかりやすい慣用的な言葉がいい。
- 【調査員】教科書の64ページ65ページに「いじめについて考える いじめが生まれるとき」があり、2年生68, 69ページにも「いじめについて考える いじめの一因」、3年生ページにも58, 59ページにも「いじめについて考える 自分たちにはできること」がある。1年生から3年生まで、いじめについて連続して考えることで、いじめについての学習を積み重ねられるという意味で書いたが、系統的・持続的という書き方が適当であったかは分からない。
- 【武田委員】他社も共通しているのであれば、先ほどの教科書のサイズと同じように、特化して書く必要がない。削除していいか。
- 【調査員】光村だけが特化している部分ということではない。
- 【会 長】「系統的・継続的に」というのを取っただけだと、日本語として美しくない。「生徒が課題や事象を発達段階に応じて学ぶことができるように配慮されている」となっていれば、文章として違和感がない。
- 【武田委員】「課題」と「事象」は例示にならないので、「事象」はとっていいのではないか。
- 【会 長】「生徒が課題を発達段階に応じて学ぶことができるように配慮されている。」でどうか。（異議なし）
- 【会 長】他のところには、いじめ等のことで「コラム等」といった文言はなさそうだが、いじめに関する部分で、「コラム等」が設定されているのは『光村図書出版』の特徴か。
- 【調査員】「コラム」という言い方を使っているので、特色かと思う。どの会社も、どの学年でも扱っているが、「コラム」としてセットで扱っているところばかりではない。
- 【会 長】「全学年でいじめ問題に関連したコラムが設定されており、生徒が課題を発達段階に応じて学ぶことができるように配慮されている」としたら適切か。
- 【松谷委員】『東京出版』も、「プラットホーム」という形で扱っている。
- 【武田委員】生徒が課題を学ぶということはない。「生徒が課題をつかみ、考えが深められるように配慮されている」だとどうか。（異議なし）
- 【堀 委員】『日本文教出版』の説明の中で、「道徳的な諸価値が教材の題材名として明示され」とあるが、目次に題材名が羅列されている。それが道徳的諸価値を明示していることになるのか。
- 【調査員】題名の上の部分に表記されている。
- 【堀 委員】題材名としてとなると、題名の部分になるので、違う言い方がいいのではないか。
- 【武田委員】「道徳的諸価値が明示され」だとどうか。
- 【会 長】「教材の題材名として」を削除の方向で。（異議なし）

【武田委員】『学研教育みらい』の全体的な特色の一つ目が分かりにくい。学級の実態に応じて発問を工夫できるように、どのような配慮を重ねるのが入っていない。主語が「生徒」というのと「教師」というのが混ざっているというのが一つ、どのような配慮をするのかが明示されないと特色にならないというのが二つ目。

【調査員】これから何を学ぶのかについて、他社は「問い」がいくつも載っているが、『学研教育みらい』は「問い」が一つしか用意されていない。『学研教育みらい』では、指導書に他の例が載っていることもあり、学級に応じて教師側がその題材を通して学ばせたいことを考えられるという意図。

【会長】「主題名を明記しないことで、生徒が主体的に問題意識を持つよう配慮されている。学級の実態に応じて少ない発問でも生徒が考え、議論するための工夫がなされている。」ではいかがか。

【武田委員】文言はそれでいい。『日本文教出版』1を見ると、「道徳的な価値が明記され、生徒が主体的に問題を把握し」とある。ところが『学研教育みらい』では、「主題名を明示しないことで主体的に問題意識をもち」とあり、矛盾する。どちらも「生徒が主体的に問題を把握し」という部分を取るのはいかがか。例えば、『日本文教出版』は、「道徳的な価値が明示され、考え議論するための発問や幅広いテーマが工夫されており」とする。『学研教育みらい』は「教材中に主題名を明示しないことで、特定の価値に限定することなく、生徒が課題を発見し、」とするのはいかがか。そうすると、全体的な特色の中からも、「生徒が主体的に問題意識をもち」はとってしまわないと整合性がなくなる。

【会長】教科の目標については、『日本文教出版』、『学研教育みらい』ともに、今の修正でよいか。（異議なし）次の全体的な特色で、「学級の実態に応じて、少ない発問でも生徒が考え、議論するための工夫がなされている。」という一文でよいか。

【松谷委員】「主題名を明示せず、発問を精選する等、学級の実態に応じて工夫することができるよう配慮されている。」としたらどうか。（異議なし）

【武田委員】『廣済堂あかつき』2（5）「生徒の学習への負担感が軽減するように」という部分は、「生徒の発達段階に応じて、本文の文字サイズを配慮する等、生徒が学習に向かえるよう工夫されている」はどうか。（異議なし）

【堀委員】『日本文教出版』の4で、「教材に題材名」とあるが「主題名」へ。（異議なし）

② 特別支援学校小・中学部及び小・中学校特別支援学級において教科用図書として使用する一般図書について

【堀委員】「どうぞのいす」の1について、「自分からやさしさを始める」という言い方に違和感がある。「相手にやさしい行為を行うことの大切さが示されている。」としたらどうか。（異議なし）

③ 教科用図書の採択に関する教育委員会への答申（案）について

(2) 教育委員会への答申について

* 議事内容については、全員異議なく承認されました。